

問題作成方針に関する検討の方向性

【地理総合、歴史総合、公共】

○ 『地理総合、歴史総合、公共』では、地理歴史科、公民科の必履修科目(学科等を問わず全ての生徒が卒業までに履修する科目)である3科目に対応した三つを出題範囲として出題する(受験者は、そのうち二つを選択解答する。)

○ 新学習指導要領に示されている、それぞれの科目で育成することとされている資質・能力を一層重視したものとなるよう検討する。

【歴史(歴史総合、日本史探究、世界史探究)】

○ 『歴史総合、日本史探究』では、必履修科目である「歴史総合」と、その履修後に学習する選択科目である「日本史探究」を総合した範囲から出題する。

○ 『歴史総合、世界史探究』では、必履修科目である「歴史総合」と、その履修後に学習する選択科目である「世界史探究」を総合した範囲から出題する。

○ 新学習指導要領に示されている「歴史総合」、「日本史探究」及び「世界史探究」で育成することとされている資質・能力を一層重視したものとなるよう検討する。

[令和7年度試験の問題作成の方向性、試作問題等 | 大学入試センター \(dnc.ac.jp\)](http://dnc.ac.jp) (2022.11.9、大学入試センター)

【問題作成方針のポイント】

- ・ 令和7年度の問題作成方針では、歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察、「構想する」過程も重視されることが加えられた。
- ・ 歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、「歴史的な見方・考え方を働かせながら概念などを活用して」多面的・多角的に考察することが加えられた。

問題作成方針

【令和7年度】

『歴史総合、日本史探究』、『歴史総合、世界史探究』、『地理総合/歴史総合/公共』の「歴史総合」部分

○ 歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察、**構想する**過程を重視する。

用語などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず、歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連等について、**歴史的な見方・考え方を働かせながら、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、課題の解決を視野に入れて構想したりする力**を求める。『歴史総合、日本史探究』及び『歴史総合、世界史探究』では、「歴史総合」で学習したことと、それを基に「日本史探究」又は「世界史探究」で学習したことを問う。

問題の作成に当たっては、**事象に関する深い理解を伴った知識を活用して、例えば、教科書等で扱われていない資料であっても、そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題や、仮説を立てて資料に基づき根拠を示したり検証したりする問題、時代や地域を超えて特定のテーマについて考察する問題など**を含めて検討する。

参考【令和6年度】【歴史(日本史・世界史)】

歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視する。用語などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず、歴史的な事象の意味や意義、特色や相互の関連等について、総合的に考察する力を求める。

問題の作成に当たっては、事象に関する深い理解に基づいて、例えば、教科書等で扱われていない初見の資料であっても、そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題、仮説を立て、資料に基づいて根拠を示したり、検証したりする問題や、歴史の展開を考察したり、時代や地域を超えて特定のテーマについて考察したりする問題などを含めて検討する。